

## 平成 30 年度 園の自己評価結果について

今年度の自己評価を実施しました。また、学校関係者評価委員と学校評議員からの評価もいただき、下記の通り平成 30 年度本園の自己評価をまとめました。この結果をもとに来年度についての経営及び運営についての協議をし、さらに本園の向上をねらうために来年度の活動方針を決定していきます。

めざす園児像	めざす教師像
1 自立の精神を養い、物事にくじけない子ども。 2 明るく元気に遊び、仲良く仕事のできる子ども。 3 豊かな生活経験を通して、創造力や思考力する子ども。 4 心情を豊かにし、素直な子ども。 5 生活のきまりや約束を守る子ども。 6 正しい言葉で話すことができる子ども。 7 基本的な生活習慣が身に付いている子ども。	1 子供と共に遊び、学び、共に成長しようとする教師。 2 一人一人の子どもの良さの伸長に努める教師。 3 保護者や地域と積極的に交流し、信頼される教師。 4 専門職としての使命感をもち、日々向上しようとする教師。
<b>本年度の具体的な教育目標とその重点事項 「からだと心に栄養を！」</b>	
<p>○ 年齢に応じた環境構成の工夫と園全体の一貫した環境構成</p> <p>○人との触れ合い 異年齢交流 短大生との交流 校種別交流 幼保小連携 公共施設訪問 A</p> <p>○自然との触れ合い 園外保育の充実 地域の徒歩探検 遠足の実施 博物館や資料館の活用 A</p> <p>○読書体験の推進 外部の読み聞かせ活用 蔵書増設 読書活動の推進 図書館の活用 A</p> <p>○園行事の精選 各学期におけるメイン行事の充実 学年に応じた活動の実施 A</p> <p>○表現遊びの充実 視聴覚教材の充実 多様な楽器や音楽活動の充実 外部講師活用 B</p> <p>○ 心身ともに健康なからだづくり</p> <p>○食育の充実 給食活動の充実 草花や野菜の栽培活動 外部講師の活用 A</p> <p>○外遊びの奨励と体力向上のための活動 遊具や用具の充実 定期的な運動時間の設定 A</p> <p>○生活のリズムづくり 「早寝 早起き 朝ご飯」の奨励 食育の充実 家庭への協力 B</p> <p>○安全教育の充実 毎月の避難訓練の実施 施設設備の点検と充実 安全教室の開催 A</p> <p>○ 資質向上のための職員研修の充実</p> <p>○短大との連携充実と他校種との連携と公開保育の実現 B</p> <p>○園内研修内容の充実と県や市主催の研修への積極的参加 A</p> <p>評価は A 十分達成 B ほぼ達成 C 達成に向かって進行中 D 達成度は低い E 全く達成できない です</p>	

評価項目の達成及び取り組み状況		
評価項目	評価	理 由
<b>(1)教育保育内容</b> 年間指導計画の見直し 学級経営と学年経営 全体計画の立案 園児の成長の看取り 週案の立案と実践	A	企画会と称して企画員の職員の創意工夫による企画運営に重点を置き、今年度の運営方針や教育目標を達成するための施策について十分に職員同士の協議に時間を割いた。その結果保護者からの理解も得られ一貫した教育保育の姿勢ができたように思う。園児の実態を正しく把握する力の向上と目指す園児像の具体像を考え維持できるようにしたい。
<b>(2)子育て支援としての役割</b> 預かり保育 未就園児への支援 子育て講座 食事相談 教育相談 就学に向けての相談	B	短大との共催の子育てひろば「ぼぼ」も定着し、毎月たくさんの利用がある。さらに子育てサロン「おしゃべり」の実施もし、参加人数は少ないが、貴重な子育て支援として捉えている。来年度は参加人数の増加を図る内容を考えていきたい。園の基本的な子育てについての考え方の理解が保護者に深まった感はある。短大の職員による子育て講座も保護者のニーズによる内容と時期を考慮したい。
<b>(3)安全管理</b> 毎日と毎月の探検 検食 乳幼児の安全午睡	A	危機管理マニュアルの見直しの徹底を図り、1,2歳児の午睡中の突然死症候群対応マニュアルも追加作成した。食品にアレルギーを持つ園児一人一人に対して、常に職員一人が対応することになっている。園舎内外の老朽化の進む箇所については、新設できた。(照明全部のLED化、遊戯室及び管理棟エアコン取り替え、下駄箱裏板改修、プール塗装、総合遊具の取り替えと遊具の新設、屋根の大規模改修等)
<b>(4)職員の質の向上</b> 園内外の研修の充実 公開保育の実施 他園の保育参観 県市の研修参加 自己評価の実施 保護者アンケートの実施 参観アンケートの実施	A	今年度始めて「目指す教師像」を掲げ、4の専門職としての使命感をもち、日々向上しようとする教師を強調した。そこで研修主任中心に園内研修の充実を図った。支援を要する園児について、短大の先生を招聘し、現場の実態を職員全部で観察したりした。具体的な保育教育の在り方を話し合う場の設定に研修主任の力量が発揮された。
<b>(5) 財務管理</b> 適正な会計処理等	A	諸会計報告やスポーツ振興会計の報告については、滞りなく処置できた。
<b>総 合 的 な 評 価</b>		
職員全体の意識が向上し、組織の一員としての自覚をもって職務に取り組む姿が見えた。チームで働くという園長が掲げる具体的目標が浸透してきたのは、核になる職員の存在も大きい。外部との交渉も数多くなり、園児の教育活動範囲が広がっている。また食育と読書の充実を意識した職員たちの取り組みが目立った。今後も強化継続して行きたい。保護者の理解も増し、園からの働きかけに前向きに取り組んでいただいている。		
<b>今 後 取 り 組 む べ き 課 題</b>		
認定園としての教育課程の確立を目指すことである。幼稚園としての長い歴史のある園であるが、1,2歳児の保育分野の充実を目指すためには、「認定園の在るべき姿」を模索している。地域や保護者との深い連携、額田保育園との連携継続強化と新設された笠間と稲田との連携も視野に入れる必要がある。施設設備については、老朽化に伴う危険箇所等についてはかなり整備が進んでいるが、保護者からの指摘されている安全な駐車場の確保も見通しがついたので、今後どのように運営していくかを慎重に検討したい。		